



古楽器で愉しむバロック音楽

みやび

うたげ

雅な宴

十八世紀前半のフランス音楽

J-Ph.ラモー：クラヴサン・コンセール第2番 ト長調

C.デュパール：リコーダーと通奏低音のための組曲第3番 ロ短調

A.D.フィリドール：リコーダー・ソナタ ニ短調

M.ブラヴェ：フルートと通奏低音のためのソナタ ニ長調 Op.3-6

F.クーブラン：クラヴサン曲集第3巻 第13オールドルより「百合の花開く」、他（チェンバロ独奏）

A.フォルクレ：ヴィオール組曲 ニ短調より（ガンバ&チェンバロ）

リコーダー/ フラウト・トラヴェルソ：国枝 俊太郎

ヴィオラ・ダ・ガンバ：矢口 麻衣子

チェンバロ：寺村 朋子

2026年 10月16日【金】 18:00 開演 (17:30 開場)

小金井 宮地楽器ホール 小ホール (JR 中央線 武蔵小金井駅 南口駅前)

入場料：一般 2,900 円 学生 2,000 円 (全席自由)

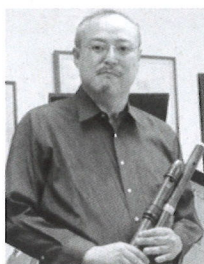
ご予約・お問い合わせ：コンティヌオ

Eメール maiyaguchi.vdg@gmail.com 電話 090-4711-0166

後援：日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会 日本チェンバロ協会

フランスの18世紀前半は、太陽王ルイ14世の治世末期から摂政を経てルイ15世の親政へと政治が移り変わった時代でした。この時代には主に音楽の舞台はルイ14世のヴェルサイユ宮殿からパリに住む貴族のサロンへと移り、壮麗な宮廷音楽とは趣異なる小編成の器楽アンサンブルや様々な器楽曲が人気を博します。またこの頃には「ロココ」と呼ばれる様式が芽生え、美術においてはヴァトーの雅宴画（フェート・ギャラント）と呼ばれる野外に集い会話や音楽、ダンスなどに興じる人々の情景を描く風俗画が登場しましたが、音楽の分野でも、軽やかで洗練されたロココ風の作風が流行し始めました。更に、器楽曲ではそれまでフランス室内楽の中心であった「組曲」に加えて、イタリア音楽の影響で「ソナタ」も書かれるようになり、フランスとイタリア音楽の融合が目指されました。

本公演では、バロックからロココへの過渡期とも言えるこの時代を象徴する音楽家たちの作品を取り上げ、当時の演奏様式でお楽しみいただきます。



国枝 俊太郎 Shuntaro KUNIEDA（リコーダー、フラウト・トラヴェルソ）
リコーダーを安井敬、フラウト・トラヴェルソを故 中村忠の各氏に師事。これまで東京リコーダー・オーケストラのメンバーとしてNHK教育テレビ「ふえはうたう」「トゥットアンサンブル」に出演、CD録音にも参加する。2018年開催の「東京・春・音楽祭」において、ロシアの世界的ピアニスト、コンスタンチン・リフシッツと共演する。現在はバロック室内楽を中心に、古楽器オーケストラによる数々の演奏会に出演するなど、幅広く活動している。バロックアンサンブル「クラングレーデ」「ムジカ・レセルヴァータ」メンバー。



矢口 麻衣子 Maiko YAGUCHI（ヴィオラ・ダ・ガンバ）
東京都小金井市出身。国立音楽大学楽理学科卒業。音楽学を高野紀子氏に、ヴィオラ・ダ・ガンバを神戸愉樹美、平尾雅子の各氏に師事。1999年ドイツ・ヴェルツブルク音楽大学にてヴィオラ・ダ・ガンバをヤープ・テル・リンデン氏に師事。2015年、ニース夏期国際音楽アカデミーにてマリアンス・ミュラー氏に師事。現在、ソロおよび通奏低音奏者として幅広く演奏活動している。日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会会員。
ホームページ <http://mayagamba.pinoko.jp>



寺村 朋子 Tomoko TERAMURA（チェンバロ）
東京藝術大学チェンバロ科卒業。同大学大学院修士課程修了。山田貢、鈴木雅明の両氏に師事。第7回国際古楽コンクール<山梨>第2位入賞。NHK「FMリサイタル」に出演。「フルート・バロックソナタ集」「J.S.バッハ作品集」（増刷）を編曲、出版。チェンバロ・ソロCD「お気に召すまゝ Capriccio」（レコード芸術準推薦）リリース。宮地楽器チェンバロ科講師。日本チェンバロ協会会員。（一財）チェンバロ振興財団クーブラン理事。
現在YouTubeチャンネル「Cembalo チェンバロう！」を開設し演奏動画を配信中。

小金井 宮地楽器ホール

〒184-0004 東京都小金井市本町 6-14-45

TEL 042-380-8077 FAX 042-380-8078

※駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しいただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください。

表面絵画：アントワーン・ヴァトー：「舞踏会の喜び」
（1715-1717年頃）

